

9/17付
きさかぎ



東京公演 大いなる秋田 会場一つに

歌と演奏、愛郷心表現



人が、石井敏の「合唱とピアノのための楽曲『大いなる秋田』」などを披露した。アンコールでは出演者と約1600人の観客が一体となって秋田県民歌を歌い上げ、感動を分かち合った。

■関連記事27面

首都圏在住の県出身者らによる「大いなる秋田東京公演2014」が15日、東京・池袋の東京芸術劇場で行われ、合唱と吹奏楽合わせて197名が吹奏楽と合唱で「大いなる秋田」を披露した東京公演

曲目は「大いなる秋田」のほか、スメタナの「モルダウ」（吹奏楽）、シベリウスの「フィンランディア」（合唱と吹奏楽）。祖国を誇るチェコ、フィンランドの国民的楽曲と、秋田県民歌を含む「大いなる秋田」を組み合わせ、県出身者の愛郷心を伝えた。昨年12月から練習を積んで

きた参加者は、本番でも堂々と歌と演奏を響かせた。アンコールでは、歌いながら涙を拭う観客の姿が見られた。

羽後町出身の実行委員長でトロンボーンを吹いた東海林悟さん(38)は「東京都港区、会社役員」は「涙がこぼれた。苦勞したが、やって良かった」。妊娠4カ月で合唱に参加した秋田市出身の田中香織さん(31)は「横浜市、公務員」は「いい胎教になったかも。東京公演が続くなら、子どもも参加させたい」と話した。

観客も感動を共にした。初めて「大いなる秋田」を聴いた美郷町出身の栗林瑛二さん(74)は「神奈川県大和市」は「小さいころに遊んだ里山や水辺の風景を思い出した」。合唱で参加した長女の応援に駆け付けた横手市の石井政巳さん(61)は「農業」は「秋田に生まれて良かったこの思いが込み上げ、泣いてしまった」。出演する友人の誘いで訪れた加納史織さん(25)は「千葉県市、作業療法士」は「秋田県出身者の地元愛が伝わってきた。校歌のように県民歌を歌えるのがすごい」と話した。

東京公演は10年5月に続き2回目、有志による実行委員会の主催。10、11月に本県で開催される国民文化祭の応援事業と位置付け、ステージで国文祭のPRも行った。

(高野正巳、相沢一浩)